

GET2009

はじめに

一橋大学国際交流・学生企画運営団体『GET』
2009 代表 常安郁彌

『GET』とは『Glocal Energy Transfer』の略で、提携している国や地域の学生との相互ホームステイを中心に様々な活動を行っている国際交流団体です。GET2009 ではスイス・香港・ドイツ・韓国の学生と交流を行いました。お互いに約 2 週間ずつホームステイを行い、ホームステイ中は観光やディスカッション、企業・団体訪問、イベント開催などを行います。なおこれらは全て学生が企画・運営します。国際交流と言っても日本のこともしっかりと相手に紹介しなくてはならないので、相手の国や地域だけでなく、日本についても理解が深まります。この活動はまさに草の根の国際交流、相互のフィールドワークと捉えることもできるでしょう。



私は GET2009 で韓国とスイスの活動に参加しました。私が思うに、この活動を通して得られる最も素晴らしいことは同世代の海外のかけがえのない友人を得られることです。約 1 ヶ月の間、ともに生活し、語らい、時には争い、最後には笑い合い、別れに涙し合った、そんな濃密な活動をともした最高の友人たちです。活動をすべて終えて帰国するときにはいつも人生にそう何度も味わえないであろう感動に包まれます。

私がこの活動を行った国や地域を思うとき、その国の形や文化、特産品、漠然としたイメージよりも友人たちの顔や一緒に過ごした思い出がまず浮かんできます。これは素晴らしいことだとは思いませんか。今後も友人たちとは連絡を取り合いまた再会できる日を本当に待ち望んでいます。

この報告書は 2008 年 5 月から 2009 年 5 月までの私たちの活動を主に相互ホームステイ中の活動に焦点を当ててまとめたものです。自分で考え、実践するという私たちの主体性やガッツ、活動を終えた達成感などが各メンバーの記述から滲み出ていると思います。その私たちの「熱い」思いを読み取っていただければ幸いです。最後になりましたが、私たちの活動を支援し協力してくださったすべての方々に御礼を申し上げて簡単ながら私の挨拶と代えさせていただきます。

GET:学生の、学生による、学生のための国際企画運営プロジェクト

一橋大学国際戦略本部准教授

太田 浩



大学における海外研修や国際交流プログラムは、もはや当たり前前の時代となりましたが、GET はそれらのプログラムと明らかに一線を画しています。それは、大学が用意したプログラムに学生が受動的に参加するのではなく、プロジェクトそのものを学生自らが立ち上げ、運営しているところです。まさに「熱い想いをカタチにする場」であると言え、冷めた学生には務まらない、熱のこもったプロジェクトを毎年展開しています。海外のカウンターパート（GET2009 の場合は、スイスの University of St. Gallen、韓国の祥明大学、そしてドイツの University of Cologne の学生）とは、受入・派遣の双方向での交流を行い、双方とも派遣先ではホームステイを経験します。訪問に際しては、活動や研究テーマを持って取り組み、現地滞在期間中にフィールドワークを行い、そのフィールドワークを受入側がファシリテートします。こうした一連の活動は、参加学生の国際性の涵養、そして国境や文化を越えた能力(Transnational Competence)の習得につながっています。つまり、GETでの活動は、グローバルな視点でビジネスや社会を認識する能力を身につけるための貴重な経験を与えており、そこに集まる学生たちは、上記のような活動の理念を共有する企画・運営力の高いチームを形成しているといえるでしょう。

私がこのGETに関わるようになったGET2003以来、私の顧問としての喜びは、この「熱い想い」を共有する学生たちとの出会いであり、その成長を見届けることです。毎年、GETの構成メンバーは、変わっていても、彼らの「熱い想い」は共通していました。それを継承することによって、メンバーが交代していく中でもさまざまなノウハウを蓄積しながら、各プロジェクトが成功を収め続けてきたのだと思います。GETプロジェクトでの企画・運営・管理・調整の大部分には、苦労、不便、そして、もどかしさが付きものです。しかし、そのような生みの苦しみがあるからこそ、プロジェクトを完了したときの達成感が何事にも代えがたく、後年振り返ったとき、GETこそ人生の転機(Life-changing experience)であったというレベルにまで昇華されることもあるでしょう。情報化、グローバル化の進展で、刺激かつ非日常的な出来事をヴァーチャルに体験することは容易になりました。「セカンドライフ」に入れば、自宅で海外旅行をすることもさえも可能です。私たちの生活は、恐ろしいほど「便利なもの」であふれかえっています。そういう時代だからこそ、学生時代にあって「不便なこと」、「面倒なこと」に挑戦して、それを乗り越えた証としての「喜び」と「自信」を身につけてほしいと思っています。逆説的な言い方ですが、国際交流とは言葉の違い、文化の違い、考え方の違いなどの「不便さ」を、身をもって体験し、それをどう克服するかについて、挑むためにあると言えます。その経験を通して学ぶことは、「便利さ」の中で得るもののより、はるかに価値のあるものであり、それが新たな挑戦へと導くでしょう。GET2009に参加した学生たちは、この報告書が終わりではなく、実は「始まり」であることを知るでしょう。

GET概要

GETとは

グローバル化する世界へ対応していくために必要な世界的視野(Global)と自らの基盤となる社会への深い理解(Local)を併せた「Glocal なバランス感覚」を養うべく、海外の学生との共同企画を主軸とした異文化交流団体 “Glocal Energy Transfer” は 1997 年に設立された。2006 年、能動的に知識を吸収し、そこから新たに可能性を広げていくことのできる活動を付与することが重要であると感じ、上記の理念に加え「自己の発進、社会への発信」という理念を新たに加えた。そして現在我々は、〈国際学生企画運営プロジェクトGET〉として、アジア・ヨーロッパ地域それぞれの大学と提携し、個々のメンバーが活動を通じて自己を成長させ社会に対して価値を発進していく人材となるためのプラットフォームとして挑戦を続けている。

団体の特徴 About us

◆短期プロジェクト

1 年完結型の短期プロジェクト

◆少人数による運営

個人の役割とそれに伴う責任を大切にするために少人数で活動

◆自分達の手による企画運営

活動方針や企画も毎年それぞれ、新たなメンバーによって決定されている

◆海外の学生との共同企画

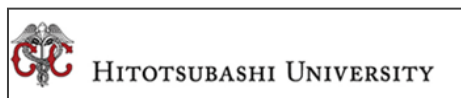
Glocal な視点を養うために海外の学生との共同企画を活動の中心に据えている

◆Exchange

提携大学と相互に二週間程度ホームステイを行い、企業訪問・研究テーマディスカッション・イベント企画・観光などを実施。企画、運営などは全てメンバーの手で進められる。



【日本 -Japan-】
一橋大学



【スイス -Switzerland-】
University of St. Gallen

【香港 -Hong Kong-】
香港城市大學



【ドイツ-Germany-】
University of Cologne



【韓国 -Korea-】
祥明大学校

